

事業所名 株式会社きらら 果実の木

支援プログラム (参考様式)

作成日 R7 年 3 月 17 日

| | | | |
|-------------|--|---------|-------|
| 法人 (事業所) 理念 | <p>私たちは、「誠意」「情熱」「誇り」を大切に、常に誠意をもって行動し、すべての取り組みに情熱を注ぎます。そして、自分自身にとっても、関わるすべての人々にとっても誇れる仕事をしていきます。また、会社として地域社会にどのような価値を提供できるのかを常に考え、より良い社会の実現に向けて取り組んでいきます。「育む」という言葉には、親鳥が雛を羽で包むように守る姿が、「育つ」という言葉には、雛が巣立っていく姿が込められています。私たち果実の木のスタッフは、その羽のように子どもたちをやさしく包み込み、安心できる環境の中で成長を支えます。そして、子どもたちが未来に向かって自らの力で巣立ち、独り立ちできるように、その歩みに寄り添います。子どもたちが成長し、大人になる過程で挫けそうになったとき、ふと思い出して心の支えとなれるような——そんな、かけがえのない存在でありたい。その想いを胸に、私たちは誠意と情熱をもって、日々支援に取り組んでいます。</p> | | |
| 支援方針 | <p>私たちは、子どもたち一人ひとりに寄り添い、安心できる環境の中で「できた」「知っている」「わかった」という体験を積み重ね、自信と挑戦する気持ちを育てていきます。その過程で信頼関係を築き、子どもたちにとって心の支えとなる存在であり続けます。</p> <p>①重要他者としての存在 私たちは、子どもたちにとって最も身近な「重要他者」として関わり、安心して頼れる存在であることを目指します。日々の積み重ねの中で、子どもたちが成長し、大人になったときにふと思い出し、励みとなるような人間関係を築いていきます。</p> <p>②果実の木のような支え 果実の木が豊かに実を結ぶように、子どもたちの可能性を大切に、支えながら育むことで、人生において心の拠り所となれる存在を目指します。</p> <p>③家族に寄り添う支援 私たちは、子どもたちとご家族のすぐそばで寄り添い、専門的な知識と経験を活かした質の高い支援を提供します。お子さまの「今夢中になっていること」「良いところ」「頑張っていること」を見つけ出し、保護者の皆さまと共有しながら、共に成長を見守ります。</p> <p>④個性の尊重と成長の促進 人権を尊重し、一人ひとりの個性を理解し、伸ばすことを大切にしています。同年代の子ども同士の関わりから学び、年上の子が年下の子を教えることで成長し、年下の子が年上の子を見習うことで学ぶ——そうした自然な関係性が育まれる環境づくりに努めています。</p> <p>療育方針 ～良い人間関係の経験を通して～ ～子どもたちの人生を豊かにするために～ 私たちは、家族以外の「重要他者との良い人間関係の経験の積み重ね」が、子どもたちの心の成長に欠かせないと考えます。成長の過程で出会う先生や友達との楽しい思い出は、心の支えとなり、かけがえのない存在になります。温かい人間関係の積み重ねは、感性や心を豊かにし、子どもたちが将来に向かって安心して歩んでいける力となります。お父さん・お母さん以外にも心を許せる大人や友達と出会うような環境を整え、子どもたちが自分らしく成長できる場を提供します。</p> | | |
| 営業時間 | 登校日(平日)14:00～17:30 休校日(土・祝日・長期休暇)10:30～16:30 休校日(日)9:30～15:30 | 送迎実施の有無 | あり なし |

| | | 支援内容 |
|-------|--|--|
| 健康・生活 | | <p>1. 心身の把握と健康の増進 子どもたちが健康な生活を送るためには、自身の体調や気分を理解し、適切に管理する力を養うことが大切です。そのため、以下のような取り組みを行っています。 定期的な体調チェック:子どもたちの健康状態を把握するために、登所時や活動の合間に「体調チェックシート」や職員の声かけを活用し、その日の体調や気分を確認しています。体温や顔色、食欲の有無、疲れの程度なども観察し、必要に応じて休息を取るよう促しています。 気分の自己表現の支援:子どもによっては、自分の気分を言葉で表現することが難しい場合もあります。そのため、イラストを活用した「気持ちカード」や「今日の気分シート」などを用意し、自分の感情や体調を視覚的に伝えられるよう支援しています。 健康的な生活習慣の意識づけ:日々の活動の中で、「睡眠」「食事」「運動」の大切さを学べるよう、ポスター掲示や絵本の読み聞かせ、健康に関する簡単なクイズなどを取り入れています。また、歯磨きの習慣化や手洗い・うがいの徹底など、感染症予防に関する指導も行っています。</p> <p>2. クッキング活動 習慣を身につけることは、将来的な自立にもつながります。クッキング活動を通じて、以下のような支援を行っています。 調理の基礎を学ぶ:包丁やピーラーなどの道具の使い方、火や熱湯の取り扱い方を学び、安全に調理ができるようサポートしています。簡単な食材のカットや混ぜる作業から始め、徐々にステップアップしながら、子ども自身が「できた!」と感じられる経験を積めるようにしています。 食材への興味を引き出す:食材の色や形、触感、香りを感じる体験を大切にし、「野菜を切る前と後でどう変わるかな?」「この果物はどんな味がするかな?」といった声かけを行い、五感を使った学びを促しています。また、栄養のバランスについて簡単に説明し、「野菜を食べると元気になるよ」「お肉は筋肉を作るよ」といったポジティブな声かけも行っています。 役割分担を通じた協調性の育成:クッキング活動では、子ども同士で役割を分担しながら進めています。例えば、「材料を切る人」「混ぜる人」「盛り付ける人」など、個々の得意なことを活かして活動することで、協調性やチームワークを育てています。 食べる楽しさを知る:自分たちで作った料理をみんなで食べることで、「食べる楽しさ」を体験しています。苦手な食材でも「自分で作ったから食べてみようかな」とチャレンジする子どもも多く、食の幅を広げるきっかけとなっています。</p> <p>3. 構造化を用いた生活環境の整備 子どもたちが安心して活動に取り組むためには、生活環境の整備が重要です。特に、自閉症スペクトラムなどの特性を持つ子どもにとっては、見通しを持って行動できる環境がストレスを軽減し、生活の質を向上させる要素となります。そのため、以下のような工夫をしています。 視覚的なスケジュールの活:1日の流れを分かりやすくするために、視覚支援のスケジュールボードを用意しています。「今はこの活動」「次はこれをする」と一目で分かるようにし、不安を軽減しながらスムーズに行動できるよう支援しています。 掲示物やラベルの活用:教室内の収納には、絵カードや文字ラベルを貼り、「どこに何があるか」が明確に分かるよう工夫しています。特に、帰り支度の時間には「カバンの中に入れるものチェックリスト」などを活用し、自分で準備ができるよう促しています。 落ち着けるスペースの確保:刺激の多い環境では気持ちが不安定になりやすいため、「落ち着きスペース」を用意し、クールダウンが必要な子どもが一時的に休める場所を設けています。静かな場所にクッションやブランケットを置き、安心して過ごせるよう工夫しています。</p> |
| 運動・感覚 | | <p>1. 運動プログラム スポーツ・ミニゲーム…体の動かし方やバランス感覚を養いながら、仲間と協力する力を育てることを目的に、さまざまな運動遊びを行っています。具体的な活動内容は以下のとおりです。 ボール運動:キャッチボールやドッジボールを通して、手と目の協働動作を鍛えます。柔らかいボールを使用し、恐怖心なく楽しめるよう工夫しています。 鬼ごっこ・リレー:走る・止まる・方向転換するなどの全身運動を通じて、瞬発力やバランス感覚を高めます。また、ルールを理解し仲間と協力する力も育てます。 障害物競走:平均台を渡ったりトンネルをくぐったりすることで、バランス能力や体の使い方を学びます。 マット運動・跳び箱:前転や後転を通して空間認知能力や筋力を強化します。跳び箱では高さを段階的に調整し、成功体験を積み重ねられるように支援します。 ボール遊び:バスケットボールやサッカーなどの球技を取り入れ、協調運動やチームプレイを経験できる機会を提供します。 リズムダンス…音楽に合わせて身体を動かすことで、リズム感や体幹の強化を図ります。主に以下の取り組みを行っています。 簡単な振り付けのダンス:手足を大きく動かすことで、身体全体のコントロール力を向上させます。 バランスボールやトランポリンの活用:跳ねたり揺れたりする動きの中で、楽しみながら姿勢保持能力やインナーマッスルを鍛えます。 保護者参加型のダンス交流:藤本一精氏によるダンスワークショップを開催し、親子で楽しみながら身体を動かす機会を提供しています。 公園遊び・農園作業…自然の中での活動を取り入れ、体力の向上とともに感覚の発達も促します。 公園遊び:滑り台やジャングルジムで遊ぶことで、全身の筋力やバランス感覚を養います。 農園作業:土を掘る、水やりをするなどの活動を通して、自然の感触を楽しみながら手指の巧緻性や感覚を育てます。</p> <p>2. 微細運動トレーニング 指先のトレーニング・粘土・スライム遊び手指の巧緻性を高めるために、さまざまな制作活動を取り入れています。 折り紙・切り絵:紙を折ったりハサミで切ったりすることで、指先の動きを細かく調整する力を養います。 紐通し・ビーズ遊び:小さな穴に紐を通すことで、目と手の協働動作を鍛えます。 感触遊び:粘土やスライムを使った遊びを通して、感覚認知を促進し、手指の力加減を学びます。 ビジョントレーニング視覚機能を向上させ、空間認知力を育てる活動を行っています。 点つなぎ・迷路遊び:目で追いながら線を引きすることで、手と目の連携を強化します。 アイロンビーズ・ブロック遊び:手先の操作性を高めるとともに、形や色の認識力も養います。</p> <p>3. 姿勢・動作の支援 姿勢保持・基本動作の向上…日常生活の動作をスムーズに行えるよう、姿勢保持や歩行などの基本的な動作のトレーニングを行っています。 座位保持訓練:バランスボールやクッションを使用し、正しい座り方を意識できるように支援します。</p> <p>4. 感覚の活用と調整 五感の活用…感覚を刺激する遊びを取り入れ、感覚統合を促進しています。 視覚:色や光の変化を楽しむライト遊びや、影絵遊びを行います。 聴覚:楽器を使った音遊びや、静かな音を聞き取る訓練を取り入れます。 触覚:砂遊びや水遊びなどを通して、さまざまな感触に慣れる練習を行います。</p> |

| | |
|-----------------|--|
| 本人支援 | <p>1. 感覚を活用した表現力・集中力・判断力・コミュニケーション力の向上 視覚（目で見える）、聴覚（耳で聞く）、触覚（手で触れる）など、五感を活かした活動を通して、表現力・集中力・判断力・集団でのコミュニケーション力を育みます。 視覚的支援：イラスト付きのスケジュール表を活用し、活動の流れを把握しやすくします。また、絵カードを用いて自分の気持ちや希望を伝える練習も行います。 聴覚的支援：リズム遊びや音楽活動を取り入れることで、注意力や聞く力を高めます。さらに、指示を聞き分けるトレーニングを通して、状況に応じた適切な行動を学びます。 触覚的支援：スライムや粘土遊びなどの感触遊びや、手を使った工作を通じて、集中力や想像力を養います。これらの活動には遊びの要素を取り入れ、「やらされる」のではなく「楽しみながら学ぶ」環境づくりを大切にしています。</p> <p>2. 認知の特性を踏まえた問題解決力の向上 子どもたちはそれぞれ異なる認知の特性を持っているため、一人ひとりに合った支援を行いながら、日常生活の中での気づきを通して、友達と協力しながら問題を解決する力を育てます。 買い物ごっこ：商品を選ぶ→お金を払う→お釣りを受け取るという手順を理解することで、実生活に必要な流れの把握や計算力の向上を目指します。 宝探しゲーム：ヒントをもとに答えを推測する、友達と相談して行動するなど、論理的思考や協力の大切さを学びます。 パズルやブロック遊び：手順を考えながら組み立てることで、発想力や想像力を育みます。 振り回りの時間：「どうしてこの方法ではうまくいかなかったのか？」といった問いかけを通して試行錯誤の力を養い、粘り強く考える姿勢を育てます。</p> <p>3. 朝の会・帰りの会を活用した時間調整と生活の見通し 子どもたちが一日の流れを理解し、安心して過ごせるよう、朝の会と帰りの会を大切にしています。 朝の会：「今日の予定」を確認し、活動の見通しを持つことで不安の軽減につなげます。曜日ごとの活動内容は色分けされたスケジュールボードを活用し、視覚的にも分かりやすい工夫をしています。 帰りの会：「今日頑張ったこと」「楽しかったこと」「次回の予定」などを振り返り、自己評価の習慣を身につけるとともに、次回の活動への意欲を高めます。 時間管理の支援：タイマーを使って活動時間を管理し、「今は遊ぶ時間」「次はお片付けの時間」といった時間の切り替えをスムーズにする練習を行っています。時間の感覚を身につけることで、学校や家庭における生活リズムの安定にもつながります。</p> <p>4. 小グループ活動によるコミュニケーション力と集団適応力の向上 小グループでの活動を取り入れることで、子どもたちが自然に人と関わる力を育めるよう支援しています。 ボードゲームや協力型ゲーム：「順番を守る」「相手の意見を聞く」「ルールを理解して遊ぶ」といった社会的ルールを学びます。 共同制作活動：大きな絵をみんなで描いたり、チームで工作を作ったりすることで、役割分担を通して協調性やチームワークの大切さを学びます。 関係づくりの支援：活動を通して「自分の気持ちを伝える」「相手の気持ちを考える」「人と協力する」といった経験を積み重ね、円滑な人間関係を築く力を育てています。</p> |
| 言語 コミュニケーション | <p>1. コミュニケーション手段の活用 子どもたちの個々の特性に応じ、文字や絵カード、ジェスチャーなど多様なコミュニケーション手段を活用し、意思疎通を図ります。これにより、言葉だけでは表現が難しい場面でも、自分の気持ちや考えを伝えやすい環境を整えます。</p> <p>2. 朝の会・帰りの会 毎日の朝の会・帰りの会では、自分の気持ちを言葉にして表現する機会を設け、他者の意見を受け入れる練習を行います。これにより、相互理解を深めるとともに、コミュニケーションの基本的な力を養います。</p> <p>3. 絵本や動画の活用 絵本の読み聞かせや動画視聴を通じて、言語の習得を促します。物語を聞いたり見たりすることで、新しい言葉に触れる機会を増やし、自発的な発話を引き出します。</p> <p>4. ジェスチャーゲーム ひらがなカードを用いたジェスチャーゲームを行い、言葉の意味理解を深めながら、想像力や発想力を育みます。ゲーム感覚で楽しみながら、言語力と表現力を伸ばしていきます。</p> <p>5. ありがとう大作戦（石鹸作り） 感謝の気持ちを表現することを目的に、石鹸作りを実施します。言葉で伝えにくい感謝の気持ちを形にすることで、表現力を高めるとともに、協調性やコミュニケーション能力を養います。</p> <p>6. 日本語ばなしの活用（動画視聴・ワークシート記入・発表） 日本語ばなしには、当時の人々の生活や風習が描かれており、伝統文化を知る手がかりになります。物語に使われる言葉や表現に触れることで、日本語の豊かさを学ぶことができます。動画視聴後は、物語の感想をワークシートに記入し、発表する機会を設けることで、言葉を考えて発信する力を育みます。</p> <p>7. SST学習（「いじめノックアウト」の視聴・意見交換） NHK for Schoolの「いじめノックアウト」を活用し、いじめの背景や当事者の心理について考える学習を行います。動画視聴後は、子どもたちが意見を交換しながら、いじめをなくすためにできることについて話し合います。この取り組みを通じて、共感力や適切なコミュニケーションのあり方を学びます。</p> <p>8. 3ヒントクイズ 3つのヒントから答えを導き出すクイズを実施し、思考力・集中力・語彙力・発想力・聞く力を養います。ゲーム感覚で楽しく取り組むことで、学習意欲の向上にもつながります。</p> |
| 人間関係 社会性 | <p>1. 信頼関係の形成 子どもが人との関係を意識し、身近な人との信頼関係を築くことを基盤として、他者との安定した関係を形成できるよう支援します。まずは個別支援を通じて、その子の好きなことや得意なことを活かしながら信頼を深め、安心して他者と関わるような環境を整えます。</p> <p>2. 模倣行動の支援 遊びを通じて大人や友達の動きを模倣することで、対人関係の基礎を築き、社会的な行動を学びます。例えばボードゲームでは、ルールに基づいたグループ活動を通して、順番を守る、意見を調整する、勝ち負けを受け入れるといった経験を積み、安定した人間関係と社会性を養います。</p> <p>3. 感覚運動遊びから象徴遊びへの移行支援 感覚機能を使った遊び（ボール遊び、リズム遊びなど）から、見立て遊びやごっこ遊びなどの象徴遊びへと発展させ、社会性の向上を促します。例えば公園活動では、鬼ごっこやボール遊び、遊具遊びを通じて、ルールの理解や役割分担の重要性を学びながら、他者との関わり方を身につけます。</p> <p>4. 一人遊びから協同遊びへの支援 一人遊びから並行遊び、連合的な遊び、協同遊びへと段階的に移行できるよう支援し、他者との関わりを深めます。例えばごっこ遊びでは、役割分担や他者との協力を体験することで、コミュニケーション能力を高め、円滑な人間関係を築く力を育みます。 さらに、外出活動や買い物体験を通して、地域の方々との関わりを経験し、実践的な社会性を身につけていくことも大切にしています。</p> <p>5. 自己の理解とコントロールの支援 支援者のサポートのもと、自分の得意・不得意を理解し、自分の行動の特徴を知る機会を提供します。また、感情のコントロールや適切な行動選択ができるよう支援し、自己調整力を高めることを目指します。</p> <p>6. 集団への参加支援 集団活動に必要なルールや手順を視覚的に伝え、安心して遊びや活動に参加できるよう支援します。 また、社会科見学や公共交通機関の利用体験を通じて、地域の施設を訪れ、社会への興味関心を広げるとともに、公共の場でのマナーやルールを学び、実践的な社会性を身につけます。</p> |

| | | |
|------------------|---|--|
| <p>家族支援</p> | <p>1. 障がいに関する情報提供と特性に応じた助言 障がいや発達特性についての正しい知識を深めていただくために、専門的な情報提供を行っています。また、特性に応じた対応方法や、ご家庭での関わり方について具体的な助言をいたします。必要に応じて専門機関や関係機関との連携も行き、適切な支援をサポートいたします。</p> <p>2. 子どもの発達状況や特性理解に向けた相談援助 発達段階に応じた相談支援を実施し、保護者様がより深くお子様の特性を理解できるようサポートいたします。成長に伴う困りごとや、家庭・学校生活での課題について一緒に考え、より良い支援方法を提案いたします。定期的な面談や電話・オンラインでの相談にも対応しております。</p> <p>3. 情報共有の充実 日々の活動やお子様の様子を保護者の皆様と共有することを大切にしています。送迎時の口頭での報告に加え、SNSやホームページ、LINE、お便りなどを活用し、よりタイムリーに情報をお届けできるよう努めています。お仕事などで忙しい保護者様にも、気軽にお子様の様子を知っていただけるよう工夫をしています。</p> <p>4. 家族参加型の活動や保護者同士の交流機会の提供 保護者様にもご参加いただけるイベントや活動を企画し、子どもたちと一緒に楽しんでいただく機会を設けています。また、保護者同士の交流の場を提供することで、子育ての悩みや経験を共有し、支え合える関係を築けるよう支援しています。お子様だけでなく、保護者の皆様も安心して参加できる環境づくりを大切にしています。</p> | <p>移行支援</p> <p>1. 障がいに関する情報提供および特性に応じた助言 障がいや発達に関する最新の情報を提供し、ご家庭や学校、関係機関と連携しながら、適切なサポートが受けられるよう助言を行います。特性に応じた関わり方や、日常生活での工夫、支援機関の活用方法についても具体的にご案内します。</p> <p>2. 発達段階の評価と支援計画の策定 発達状況を評価し、得意なことや苦手なことを把握した上で、個々の成長を促す支援計画を作成します。その際、保護者の皆さまのご意向をしっかりと確認し、将来の生活や進路を見据えた支援方針を立てます。日常生活スキルや社会性の向上、学習支援など、多方面からのサポートを提供します。</p> <p>3. 支援学校高等部の実習受け入れや進路相談の対応 支援学校高等部の実習生の受け入れを行い、働くことの経験を積む機会を提供します。また、高校進学を希望するお子さまに対しては、受験に関する情報提供や学習サポートを行い、必要に応じて模擬面接や自己PRの指導も実施します。さらに、就職を目指す方には、機会提供や職業生活に必要なスキルの習得を支援し、将来の選択肢を広げるための相談を受け付けています。</p> <p>4. 保育所等訪問支援を活用した学校との連携と移行支援 小学校や中学校への移行をスムーズに進めるために、保育所等訪問支援を活用し、学校と密に連携を取ります。お子さまが新しい環境で安心して過ごせるよう、教師や支援員と情報共有を行い、適切なサポートが受けられるよう支援します。また、環境や人間関係の調整、学校生活への適応をサポートするために、定期的なモニタリングとフィードバックを実施します。</p> |
| <p>地域支援・地域連携</p> | <p>1. 併用事業所や学校との情報連携や調整、支援方法や環境調整等に関する相談援助 より良い環境で学び、成長できるよう、併用事業所や学校と継続的に情報共有を行っています。個々の特性に応じた支援方法や環境の整備について、教職員や支援員と連携を図りながら調整を進めています。また、児童の成長に伴う支援の見直しや、日常生活での困りごとについても相談援助を行い、スムーズな支援の提供に努めています。</p> <p>2. 相談支援事業所や障がい福祉サービス支援事業所との支援の連携 一人ひとりの支援計画をより充実させるために、相談支援専門員や障がい福祉サービス支援事業所と連携を図っています。サービスの提供状況や支援方針について定期的な話し合いを行い、児童が家庭や学校、地域で安心して過ごせるよう支援の充実を図っています。また、保護者の方々が必要な支援を適切に受けられるよう、各機関との調整を行いながら支援の方向性を共有しています。</p> <p>3. 地域行事への参加や事業所内活動への参加、招待等での地域住民との交流 地域社会とのつながりを深めるため、地元のイベントやお祭り、ボランティア活動などに積極的に参加し、児童が多様な体験を積めるよう支援しています。また、事業所内での活動にも地域の方々を招待し、相互交流を図る機会を設けています。これにより、児童が地域社会の一員としての自覚を持ち、社会性を育むことを目指しています。さらに、地域住民との交流を通じて、障がいに対する理解を深めてもらい、誰もが暮らしやすい地域づくりにも貢献していきます。</p> | <p>職員の質の向上</p> <p>1. 定期的な事業所内外の研修受講 職員が最新の支援方法や福祉に関する知識を習得できるよう、定期的に研修を実施しています。事業所内での月1回全体研修会議や各種委員会開催、事例検討会を開催するほか、毎週月曜日には全教室をオンラインで繋ぎミーティングを実施しています。新人研修も含め定期的に行います。また外部機関が主催する研修にも積極的に参加し、専門性を高めています。</p> <p>2. 資格取得などスキルアップに繋がるサポート 職員の専門性向上を支援するため、各種資格取得に向けたサポート体制を整えています。児童発達支援管理責任者、強度行動障害支援者養成研修など、業務に活かせる資格取得を推奨し、受講費用の補助や支援を行っています。また、取得後も実践の場で活かせるよう、OJTを通じたフォローアップを実施しています。</p> <p>3. 外部講師による研修の実施 より専門的な知識や技術を習得できるよう、各分野の専門家を招いた研修を定期的に開催しています。例えば、基幹相談センターから専門的な発達障害の理解を深めるための研修や、ストレスマネジメントとして社会保険労務士さんを招いての講和、ダンスワークショップなどの専門的な支援の充実するための研修など、多岐にわたる内容を企画し、実践的な学びの場を提供しています。これにより、職員が自信を持って支援を行えるようサポートしています。</p> |
| <p>主な行事等</p> | <p>4月保護者参加型企画藤本一精さんダンスワークショップ、6月・9月はばたき支援高等学校実習生受け入れ、2月保護者参加型オーシャンアロークルージング</p> | |